

平成28年度 同好会事業報告

「子どもの心を感じる会」 同好会 世話係名 小平直司 会長名 長谷川 貴美子

月 日	実施した事業内容	参加人員
8月2日	投影法演習「コラージュ」 講師 手塚里子先生（日野小学校教諭）	9名
”	講演「子ども達のメッセージを受け取る」 講師 小林文子先生（長野市教育委員会指導主事）	9名
12月10日	「子ども達と行いたい粘土細工」 講師 陶芸家 荻原 恒夫先生	5名

「子どもに『〇』の提示を増やしてあげましょう。」

長野市教委指導主事の小林文子先生に、視覚や聴覚認知、感受や思考等、専門的に話しいただき、学校の支援体制作りのヒントも教えていただきました。

「行動した先で、どうすれば『〇』がもらえるのか子どもに話しておくのと同時に、前もって先生方にもお知らせし、子どもたちがどこに行っても『〇』がもらえるようにするんです。そのためには職員間の連携は大切です。学校をまきこんで楽しい支援をしてしまいましょう。」と。

支援活動を通して子どもは『〇』をたくさんもらえるし、学校は連携していく…。日々悶々としている我々にはあたたかなお日様のごとき教えでした。

日野小学校の手塚先生にはコラージュのワークショップをしていただきました。参加者の仕上げた作品から見えてくる心理を紐解きましたが、無心で制作した作品には…。なんということでしょう。こんな心理が隠されていたのか、と一同、感心したり、驚愕したり。興味深く、そしてなにより楽しいワークショップでした。

12月、「須坂陶芸教室」の荻原先生のもとに五名が陶芸修行に行きました。「器用な子は器用なりに、でも握っただけでも形になります。」「ひとつやってみると、他のものが見えてくる。」「ぐちゃぐちゃになるのもまたおもしろいんだよね。」

「お行儀いいのばかりじゃなくていいんじゃないかな。」と、制作中の先生のお言葉には、我々が子どもと向き合う際の心得がぎっしり詰まっていた。そして「今日のは教室始まって以来の作風です。」とお褒めいただき、一同はまるで子どものように、にんまりしたのです。（会長 長谷川貴美子）

